

講義コード	515104901
講義名	保育実習指導Ⅲ
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科（短大）
講義開講時期	前期
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	矢野 善教	指定なし
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし

授業の概要

1) 授業の概要

保育実習実施基準に規定されている実習対象施設についての、法的根拠、定義、設置主体、対象者、業務について解説する。施設についての正しい理解は、本実習に際しての準備や心構え、さらには不安の軽減に大きく影響する。受講生各自が資格取得に向けての高い意識のもと、不明な点は積極的に質問するなどして講義に臨むこと。

2) 授業の方法

①プレゼンテーションの方法

板書、配布印刷物（プリント教材）、視聴覚メディアを活用する。これまでに実習経験のない「施設」での実習についてのイメージの参考となるよう、DVDの視聴を適宜採り入れる。

②授業形態

講義形式を中心とする。グループワークでは、実習中の態度等について、グループ内で意見をとりまとめ、発表する。

③アクティブラーニングの有無

実習中に起こりうる事例をテーマにグループでのディスカッションを経たまとめを発表する。

④課題に対するフィードバックの方法

授業についての要望がある場合には、授業前後の休み時間および、研究室にて受け付け、担当教員にて検討のうえ、口頭にてお返事いたします。小テストを行った場合には採点后速やかに解説を行います。

授業の到達目標及びテーマ

施設実習の対象となる施設の種別及び目的、利用対象者、機能をについて学ぶ。施設の利用者の日常と施設保育士の職務内容、役割、職員のチームワーク、家庭や地域社会との連携などについて、施設ごとの特性を踏まえて正しく理解できる能力を身につける。到達目標については学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。

また、本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2. 諸領域（人と自然・人と社会・人と

文化・言語・情報・キャリア形成)の学問分野における基礎的知識を持っている」を達成するための科目である。

授業計画表

回	内容
第1回	ガイダンス(今後の予定/なぜ施設実習を行うのか)
第2回	施設毎の実習内容の確認(1):各実習機関の説明
第3回	施設毎の実習内容の確認(2):実習毎のグループワーク
第4回	施設毎の実習内容の確認(3):各グループの発表
第5回	施設毎の実習内容の確認(4):各グループの発表
第6回	施設毎の事例紹介(1) 児童養護関係施設(乳児院・児童養護施設)
第7回	施設毎の事例紹介(2) 自立支援関係施設(児童自立支援施設・児童心理治療施設)
第8回	施設毎の事例紹介(3) 障害児者入所施設・児童発達支援センター
第9回	先輩のレポートから実習についての理解
第10回	実習日誌の記入方法
第11回	実習目標の設定
第12回	施設見学の目標設定
第13回	施設見学の振り返り
第14回	事前オリエンテーションに向けて
第15回	実習の心構えと態度、コミュニケーションについて

授業時間外の学修

講義で学ぶ施設に関連する施策やその他の出来事は、新聞やニュース等でたびたび採りあげられている。普段から意識して情報収集をし、施設についての最新動向を把握するよう努める。2年次に行う施設実習に欠かせない内容になるので、しっかりノートを作成していくこと。配布するプリントは、教科書の内容を補足するものなので、ノート・教科書・プリントの対応部分をしっかり理解し、復習を行いノートにまとめること。この復習には15分以上のかかると想定される。また、このノートづくりを通し、次回授業とのつながりを意識すること。予習には教科書の下読みを含め30分以上を想定している。これらの復習・予習を行ったうえで授業に臨むこと。

実務経験の有無

実務経験のある教員が担当する 例：企業団体の実務経験者・税理士・学校現場教員経験者・カウンセラー等

ディプロマポリシーとの関連

① 幼児教育者観	② 知識・技能	③ 実践力と実務能力	④ 人間性と協調性
◎	◎	◎	○

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が	授業内容をほぼ95%程度理解していて、自主的な学修も少し	授業内容の理解はほぼ75%程度であるこ	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資

	行えていると認められる"	行えていると認められる	とが認められる	料提供等の支援を行っている
調査する力 (予習も含む)	自ら進んで予習範囲を越えて調べるとともに、それを他者に説明することができる	定められた予習範囲について自分の力で調べることができる	定められた予習範囲について調べてはいるが、その理解にはあいまいな点が多く、不十分な部分がある	定められた予習範囲について調べられない。もしくは内容が不十分である
プレゼンテーションの分かりやすさ	課題設定・研究の手順と実際・結果・考察等が、分かりやすくまとめられている。画面がとても見やすい。	課題設定・研究の手順と実際・結果・考察等が、分かりやすくまとめられている。	課題設定・研究の手順と実際等が、教員の支援を基にまとめられている。	教員の支援があっても、なかなか自身でまとめをすることができない。
レポート力 (復習も含む)	テーマについて、授業で紹介した方法、もしくはそれに類する独自の手法を使った分析が十分になされている	テーマについて、授業で紹介した方法で分析が十分になされている	テーマについて、授業で紹介した方法で分析がなされている	テーマについての分析がなされていない

成績評価法（表形式）

	評価基準	備考
定期試験		
小テスト等	10%	
成果発表	40%	
授業への貢献度	10%	
レポート	40%	
その他		

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の冒頭で解説、講評する 授業の中で解説、講評する	授業の冒頭で解説、講評する 授業の中で解説、講評する	授業の冒頭で解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

チャット
掲示板の活用
メール等の活用

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の60～100%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
グループワークのディスカッションやディベート (議論の場と時間) プレゼンテーション 小テストや授業内レポートの活用 調べ学習・調査の活用		

教科書

福祉施設実習テキストブックー子ども・利用者理解からはじめる実践ー 建帛社
※補助教材としてプリント資料を配布します。

参考書

適宜紹介します。

SDGsとの関連

1. 貧困をなくそう
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
10. 人や国の不平等をなくそう

特記事項等

①本科目は教員2名が担当する、内1名は、教育相談およびスクールソーシャルワークの経験のある教員（公認心理師・社会福祉士）が担当します。

②科目のナンバリング

SPR2301

③オンライン授業の実施方法

Teamsによる教材提供、リアルタイム授業、小テスト、レポート等、また、ハイブリッド式授業を行う。

学生へのメッセージ

グループワークや発表を行うなど、皆さんが主体的に学ぶ内容となっています。

授業計画を参照し、不明な点は事前に担当教員に確認してください。

保育園や幼稚園とは異なる機関への実習となるため、事前学習を怠ることなく、実習を迎えましょう。

実習日誌の書き方、事前オリエンテーションの目標設定など実習に関する内容を多く盛り込んでいます。

研究室（訪問先等）

矢野 中央研究棟 2階 220研究室

※可能な限り、事前連絡後に研究室に来てください。

※急な際は、直接研究室に来てください

電話番号

矢野研究室：028-670-3680

授業用E-mail

yoshinori@sakushin-u.ac.jp

成績評価法

期末レポート 40%

グループ発表 40%

平常点（授業中の指名による発言等によって評価する） 10%

その他（小テストや課題等による評価） 10%
により総合的に評価をする。